凪通信～凪スタッフが見た被災地、歌津レポート

第 10 号　特別号　　平成24年3月17日　株式会社　凪スピリッツ　メディア部編集

2012 年、3 月 11 日から炎のつけめん　西新宿2F 店で開催している写真展は、、歌津の様子を目に焼き付けたい思いで当レポート著者、宮本が撮影したものです。彼女の素直な目線でづづったた現地の様子とあわせて、ぜひごご覧ください。

◆・・　　ラーメン凪　スタッフ　　宮本愛

1 月 26 日＊歌津レポート＊

前日にたまたま西口でバンタムさんに晴子さんとバシさんと歌津に行くことを聞き、26 日が丁度お休みを頂いていたので、同行させてもらうことにしました。

私自身の今回の目的としては、あおぞら食堂を見にいくこともですが、去年ボランティアに参加しに行ってから、行く機会のなかった歌津の現在の状況を見て記録することと、現地の人のお話を何かしら聞くことでした。

去年行った時は、震災からほぼ2カ月の時で、ひとりで高速バスを乗り継いで行きました。
その時はまだ道も津波の影響で崩れていて、もちろん広範囲にわたって家などの建物もない光景が広がっていたが、今回あおぞら食堂に向かう道中、道も酷かったところは直されていたり、新しい家やお店が並んでいました。

あおぞら食堂に到着して、みぃさん、大介さんに会う。
店内は明るい日射しが差し込んでいて、窓から海が見えた。
お客様の横の席に座って、少し震災から現在までのお話を聞く。

ラーメンを頼んで、食べ始めて暫くすると、去年お世話になったサングラスでお馴染みの及川さんと再会。当時毎日顔を合わせていたのと、一緒に写真を撮っていたことから覚えていてくださった。

そして、皆でホタテキャンドルを作っている方々のところ行くことに。

私だけ及川さんの車で行くことになったため、出発する前に及川さんの住んでいる仮設住宅を見せて頂いた。

思っていたより、しっかりした部屋で、「夜とか寒くないんですか？」と聞くと「寒くないよ」と言ってました。

また、玄関を入ったところには、ボランティアで来た方から貰ったものが、沢山飾られていた。

そして、ホタテキャンドル.作業している建物に入ると、綺麗な色のロウが目に入る。

突然見学に行ったのにも関わらず、キャンドル作りを晴子さんと体験させてもらいました。

簡単そうに、でも凄く手際よく丁寧に作っていたのを見た後、体験してみると難しい。細かいこだわりや、工夫を感じ、もはや職人技。

和気あいあいとしていて、とても温かい雰囲気で、とても楽しかったです＊

再び、あおぞら食堂に戻る帰り道、及川さんに及川さんの家があった場所に案内して頂いた。

敷地面積はとても広く、しかし残っていたのは家があったと思われるコンクリの地面が少しと、津波でも折れなかった木だけだった。

及川さんは「ここに家があって、ここに駐車場があったんだ」と私に携帯に保存してある動画を見せながら細かく教えてくれた。

また、震災当日からの数日の話をしてくれたり、今現在の心境を話してくれた。

「沢山の人が死んだのに、生き残った。死んだ人の分まで一生懸命いきなきゃいけないんだ。今は、前へ前へ進むだけ。前はクヨクヨしたり、夜になると泣いたりもしたけど、今は違う。震災直後は色んな人が助けてくれた、支えてくれた。こんどは自分で頑張らなきゃ。今は皆を支えたい。皆を支援したい。助けたい。（会話上の言葉を抜粋）」と話してくれた。

質問を私からする前に及川さんは自ら話してくれた。

「毎日忙しくて大変だけど、一度ボランティアに来てくれた人が、また来てくれた時に、「元気ないね」っていわれないように、毎日ニコニコしていたい。皆を楽しませて笑顔にしたい」と力強く言っていたのが印象的でした。

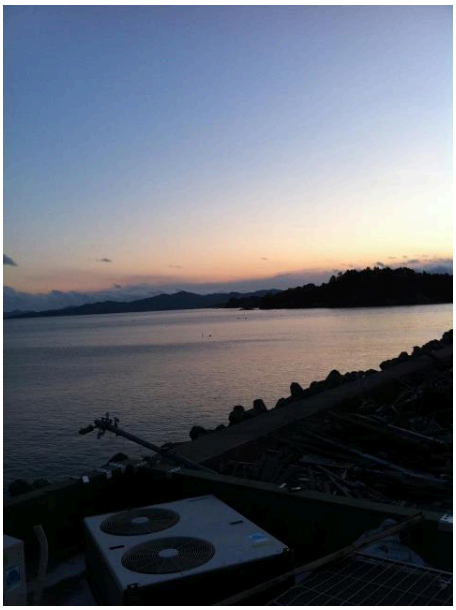
なんだか、営業にも繋がるような言葉に感じました。

前回歌津に行った時は、１週間ほどだったけど、沢山の人の悲しみを目の当たりにして、それでも気丈に振舞ってくれて、逆にパワーを貰って帰ったのだが、今回も及川さんに強いパワーをもらってしまった。

さて、あおぞら食堂に戻ってからは、暫く周辺を歩いてみた。

震災から2カ月の時点、ガレキの撤去は行われていたものの、進んでいる印象は薄かったのだが、今回当時行った場所のだいたいは綺麗になった印象を受ける。

海の近くに、大きな仮設住宅のようなものが建設されていた。



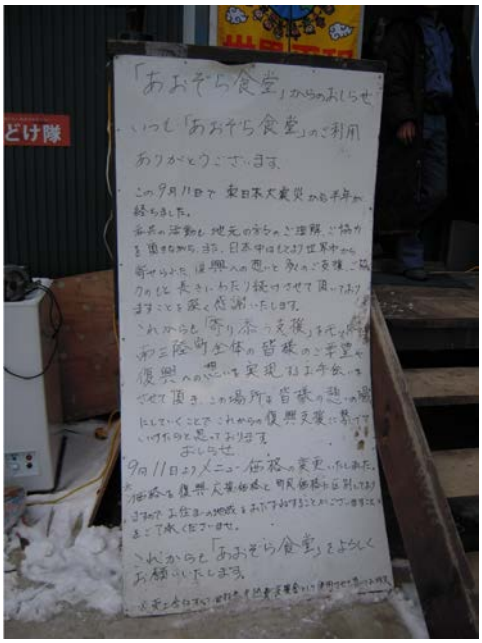
そして、その前には漁に出るための網などの道具、燃え残った車、粗大ゴミと化した家電製品など、カナリ広い面積の場所に山積みという言葉そのままのガレキの山というか壁があった。

なんとも、そこに集められた物には「生活感」を感じさせるものばかりで、悲しさと寂しさが積み上げられているようだった。

私が今回歌津に行って思ったのは、復興・支援に対する認識の甘さだったと思います。

まだまだ復興するまで多くの時間が必要なのは言うまでもなく、そこに身を置かなければならない人達への支援はまだまだ続けなければならない。

家が残っていたって、仮設住宅に入れたからって、良かったですね。で、終わらせられない、まだまだ不便な日常がそこにはあったし、人々の心の傷はそう簡単には癒えないってこと。分かってたはずのことを、私は再確認しました。忘れてはならない。



じゃあ、具体的に何を私はしたら良いのか。正直分からないのですが、前回行った後には沢山の人に現地の状況を話したり、誰かに伝えようとしました。今回もまず現在身近な人から伝えていきたいです.

今回誘ってくれたバンタムさん、晴子さん、咳込みながらも1日中運転してくれたバシさん、ありがとうございました。
今までなかった組み合わせだったのもあって、道中の会話が凄く新鮮でした！楽しかった！

みぃさん、ラーメン美味しかったです＊
帰りは心配かけました！お体お大事に。早く良くなれーっ＊

最後に、帰りによった五福星さんで、去年のボランティアの時、差し入れをして頂いたことのお礼が出来て良かったです＊

朝から3食ラーメン美味しかったっ(*´ω`*)